

APRU Multi-Hazards Lecture Series: “Virtual Autumn School on Architecture and Urban Design for Disaster Risk Reduction and Resilience”が開催されました（2021/10/19-21）

テーマ：APRU マルチハザードプログラム、都市災害リスク、都市デザイン、レジリエンス、復旧・復興
場所：Zoom オンライン

2011年東日本大震災により東日本の沿岸部は甚大な被害を受け、それから10年が経過しました。各被災地では、それぞれ困難に直面しつつも復興まちづくりを成し遂げ、新たなコミュニティを形成しようとしています。また地球全体に目を向けると、温暖化による気候変動や海面上昇の影響も無視できない状況であり、各地で関連した災害が発生しています。

こうした背景の中、東北大学災害科学国際研究所が主導しているAPRUマルチハザードプログラムの一環として、Virtual Autumn School on Architecture and Urban Design for Disaster Risk Reduction and Resilienceが開催されました。東北大学災害科学・安全学国際共同大学院プログラム（GP-RSS）、そしてAPRU加盟大学である、京都大学、フィリピン大学、チュラロンコーン大学（タイ）から22名の学生が参加し、3日間のオンライン・プログラムをこなしました。

プログラムは、村尾修教授（国際防災戦略研究分野）がホストを、目黒公郎特任教授（客員）（同研究分野）（東京大学生産技術研究所）が共同ホストを務め、司会をMartin Garcia Fry氏（工学研究科都市・建築学専攻博士課程）が担当しました。

第1日目 10月19日（火）

オープニング、オリエンテーション（村尾教授）

講義①都市災害リスクとは／What is Urban Disaster Risk?（村尾教授）

講義②災害の想定／Imagining Disasters（目黒特任教授（客員））

講義③被害軽減の重要性／Importance of Damage Mitigation（目黒特任教授（客員））

第2日目 10月20日（水）

講義④建築とリスク／Architecture and Risk

（マサチューセッツ工科大学 Miho Mazereeuw 准教授）

講義⑤都市デザインシステムの災害リスク軽減の効果／

Cities and Risk: Assessing Urban Planning Systems for Disaster Risk Reduction Effectiveness（メルボルン大学 Alan March 教授）

第3日目 10月21日（木）

ワークショップ：東京の特定地区を対象とした災害リスクの特徴と被害軽減のための提案



本プログラム告知資料



プログラムホストの村尾教授



プログラム共同ホストの
目黒特任教授（客員）



司会進行の Garcia 氏



マサチューセッツ工科大学の
Mazereeuw 准教授の講義



メルボルン大学の March 教授の講義



Miro を用いてのワークショップ



参加者の記念写真

関連情報

APRU (the Association of Pacific Rim Universities) ホームページ :

<https://apru.org/>

APRU Multi-Hazards イベントページ :

<https://apru.org/event/2021-apru-multi-hazards-autumn-lecture-series-architecture-and-urban-design-for-disaster-risk-reduction-and-resilience/>